

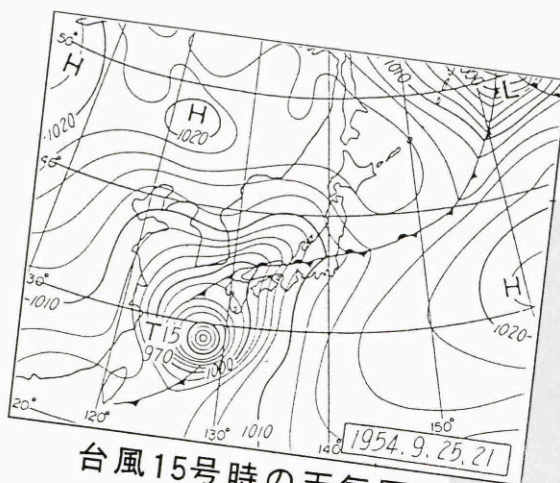
=特集=

防災を考える

9月19日グアム島付近で熱帯性低気圧が発生し、21日には台風15号(洞爺丸台風)と

昭和29年9月26日・台風15号

家屋の全・半壊23戸
流失 9戸
被害額 4億3千万円



台風15号時の天気図

この台風は、進行速度が異常に速く風速が倍加したことと、それまでの大雨で受けた被害の復旧工事が終了しないうちに、再び暴風雨に見舞われたことが、被害を大きくしたようです。

本市では、河川をはじめ橋、道路などが切断され、交通機関はマヒ状態におちいり、県から災害救助法の適用を受けました。

命名されました。

26日午前2時ごろ、鹿児島湾に上陸、九州東部を縦断して、広島・鳥取県を通り日本海へ、さらに発達し北海道を襲いました。

山口県では、山陰沖で停滞していた前線が活発化し、本市をはじめ北浦一帯は、時間雨量40mmを記録する豪雨となりました。

被害は

深川川周辺に集中

特に、深川川周辺の被害が大きく、真木地区は通学道路もなくなり、洪水にあった洪水製材所は一瞬にして川と変わり、洪水駅前の道路崩壊、また、湯本地区は公衆浴場前の千代橋に漂流物がひっかかり、川水は「大谷屋旅館」「枕水」「柿沼」などに流れこみ、あたり一帯は水浸しになりました。

下流では、板持川がはんらんし、公会堂が半分流れ、近くの新築家屋が流出しました。

市内全域での被害は、家屋の全・半壊23戸、流出9戸、床上浸水424戸、床下浸水1,467戸、土木関係が2億8千3百万円など、合計4億3千万円にものびりました。

昭和29年(1954)9月26日、台風15号

に入った、という説もあります。今年もすでに、台風などによる大雨の被害は、各地で連続して発生しています。

皆さんは、2年前の台風17号、19号に学んだ教訓を生かされていますか。

そこで、今月は防災特集です。大きな被害をもたらした、昭和29年の台風15号を振り返り、また近年の台風の傾向や防災アドバイスをもとに、今何をしなければならぬかを考えてみます。

橋のらんかん
改善

とにかく恐かったです。濁流は千代橋をのみこむように、あふれ押し寄せてきました。子どもや従業員を、避難させることで無我夢中でした。

気がつくと、対岸の原田屋旅館は1階の天井まで水につかっていた。

荷物は、線路越しにかわしました。が、オープンしたばかりの店のテーブル類は、全滅しました。

これが教訓になり、後に橋のらんかんは取り外しができるように、改善されました。

その後は大きな災害もなく、他市の災害を耳にするたびに、当地の平穏さに感謝しています。

柿沼エ子さん
(湯本区)

すが、湯本は観光地だけに、防災については、万全な備えを心がけるとともに、地域全体で考えておかねばならないと思っています。

